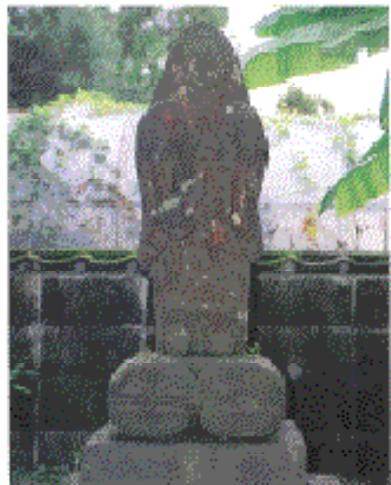


東串良町新川西の田の神

【所 在 地】肝属郡東串良町新川西下伊倉

【種 別】県指定有形民俗文化財

【指定年月日】昭和 43 年 3 月 29 日



本城石という凝灰岩を使った丸彫りの立像で細かい部分の刻線まではっきりしており、いささかの損傷もない。

シキを背のほうに長く垂らしてかぶり、きれいな顔つき、長袖、長衣の着流しで紐を前で結び長く垂らしている。右手にメシゲを立てて持ち、左手には椀ほどの大きさの宝珠を持つ。前面腹部に大きなひょうたんと木の葉のようなものをつり下げている。

この田の神の大きな特徴のひとつは2俵の俵の上に乗っていることである。像の高さ96cm。像の背面に文化4（1807）年造立されたことが刻まれている。大隅型僧型の複雑な田の神の代表である。